授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2467 号

Significance of serum p53 antibody as a tumor marker in colorectal cancer

大腸癌における血清 p53 抗体の腫瘍マーカーとしての意義

髙橋　里奈（たかはし　りな）

博士（医学）

論文内容の要旨

大腸癌における血清 p53 抗体値の測定に関して、早期癌の発見に有用であるとする報告や術後の転移・再発との関連を検討する報告を散見する。しかし術後モニタリングとしての報告は少なく確立されたものはない。実臨床においては、術後に転移・再発を認めないにもかかわらず血清 p53 抗体が陰転化しない症例や高値を継続する症例に度々遭遇し、その解釈に難渋することがある。そこで我々は血清 p53 抗体値の経時的推移に注目して術後モニタリングとしての有用性を検討した。

大腸癌に対し外科的切除を施行した 160 例において血清 p53 抗体値と臨床病理学的因子との関連を検討した。また外科的切除を施行した 160 例のうち stageⅣを除く 152 例について、血清 p53 の経時的変化を上昇率を用いて検討した。術後に測定した中で最小の抗体値を「最小値」、最小値以降に測定した値を「測定値」とし、上昇率＝（測定値 - 最小値）／最小値とした。血清 p53 抗体のカットオフ値は 1.3U/ml とした。

対象症例 160 例のうち術前 p53 抗体陰性は 123 例、陽性は 37 例だった。陽性群・陰性群における臨床病理学的因子での検討では性別，深達度，リンパ節転移，脈管浸潤，病期，転移・再発に関連は認めなかったが，p53 陽性症例の方が，結腸よりも直腸に多い分布となった。

また stageⅣを除く 152 例のうち 21 例(13.8%)に転移再発を認めた。術前 p53 陰性症例(116 例）のうち観察期間内に転移・再発を認めたのは 15 例、術前 p53 陽性症例（36 例）では 6 例に転移・再発を認めた。術前 p53 陰性症例では転移・再発の有無と上昇率に関連は認めなかったが、術前 p53 陽性の症例では転移・再発を認めた症例で有意に上昇率が高い結果となった(p＜0.001)。

術前 p53 陰性症例では腫瘍マーカーとしてフォローする意義は少ないが、術前陽性症例では陰転化の有無に関わらず上昇率に注意して測定することで転移・再発のマーカーになりうることが示唆された。